

両神山山行記録



目的地	両神山	期 日	平成19年12月9日(日)：山行中快晴
山人	笠原正雄・澄子	特 記	もう一度晴の関東の山へ：翌日、比企三山へのアプローチを訪ねる。

地名	(着)～(発)	記 事
与板発	5:15	小千谷から高速。上里SAで弁当朝食。花園ICから日向大谷へ。小鹿野町に入るとコンビニが無い。漸くあった一軒のひなびた店でカップラーメンを買う。
日向大谷歩き出し	9:55	満杯の第一駐車場に何とか割り込ませる。丁度小鹿野町営バスが回転場に来た。少し下に第2駐車場があるが、そこでは一台だけの3人が出発準備をしていた。
会 所	10:25	ここまでで4人の下山者と会う。この分岐から七滝沢コースを行く。沢に沿う道。七滝と言うが、滝だろうか沢だろうか、右手から下りてくる流れを数度渡る。
白滝看板	11:05	ここは大きくないが明らかに滝である。石がゴロゴロした沢を右岸に渡る。木橋が流された跡がある。すぐに砂石混じりの急斜面を細かい九十九折れで登る。傾斜が強くヘツリも浅い。蹴落とした石が下まで転げ落ちて行く。滑落要注意だ。
休 む	11:10～11:20	少し傾斜が緩み、大きな木の根元で休む。
赤滝看板	11:25	右に1分とあり、ベンチが一つあった。登路に薄く霜が混じる。
養老・霧降の滝	12:05	左手に長いスベリ台のような滝。上部が所々凍っている。崖穴にツララが下がっていた。鎖の岩場を上がる。会所より鈴ヶ坂までは誰も会わなかった。
鈴ヶ坂	12:15	清滝小屋との三叉分岐。ここに来ると登山者と会うようになる。開放的な尾根道に上がって行く。鎖もある。下山者数隊とスライドする。山腹道も通る。
両神神社本社 御岳神社奥社	12:55～1:30	神社前で十数人が下山準備をしていた。奥の御岳社前へ行き、陽の当たる地面に腰を下ろしランチタイム。隣に登頂を済ませた相模原の夫婦と少し会話する。カップラーメンは久しぶりだ。空荷で山頂へ。急ぎ下山する夫婦とスライド。
山 頂	1:55～2:10	直前で右に上がる案内プレートを見落とし、トラバース道を200mオーバーランしたことを指導標で気付く。Uターンして登り返す。祖父・父・子の3人が直下の鎖を降りて来た。狭い頂に祠、誰も居ない。少し霞んではいるが良く見渡せる。富士山も見える。山座円盤があるが馴染みの薄い山域のため良く分からない。
神社に戻る	2:30	すっかり人の気配は無くなった。ザックを回収して下山を急ぐ。
清滝小屋	3:00～3:10	前のベンチで湯を沸かしコーヒータム。大きな小屋に一人だけ居た。
弘法の井戸	1:20～1:25	パイプから水、コップがあった。一杯頂く。横の立派な石碑に弘法の井戸とある。
3人を超越す	3:40	頂直下の3人。薄川上流の沢に沿う山腹道、やはり数度左右に渡りながら下る。
会 所	4:00	広い沢に下りる。木橋を渡ると広場ベンチで夫婦が休んでいた。七滝沢分岐に上がりウィダーを飲む。結局、下山コースでは我々以外は計5人のみだった。
日向大谷	4:30	再び町営バスが入って来た。車の中を整えていると会所下の夫婦の車が下って行った。3人は山荘泊。最後の客となる。15分後暗くなる。両神荘へ向かう。

上山の七滝沢は破線難路となっている。白滝までは問題ないが、その後の沢からの取り付きは赤布が無ければ判断に苦しむと所だ。そして九十九折れの急登も長くは無いが難所であった。歩き出しが予想より一時間遅くなった。終盤に頭灯歩行をも覚悟したが、何とか明るい内に下山出来た。従って、ピークハントの山行となってしまった。